

東京納税貯蓄組合総連合会 会長賞

「未来を見に行くチケット」

足立区立 新田中学校

三年 山本 藍

私たちの生活の中には、たくさんの税金が使われています。学校の校舎や教科書、道路や病院など、毎日の暮らしは税金によって支えられているということを、学校で受けた税の教室で知りました。この授業を受けてから、税金は大人だけが関係しているお金という考えが変わったので、税金についていくつか調べてみました。

その中で見たのが、私も修学旅行で訪れる予定の大阪・関西万博です。二〇二五年の大阪・関西万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」がテーマで、世界中の国が参加する大きなイベントです。会場の建設や交通の整備などにも大量の税金が使われています。そのことを聞いたとき、最初は「そんなにお金をかける必要があるのかな。」と思いました。けれど、万博では地球温暖化の対策や環境エネルギー、最新の医療や再生技術など、未来のためになる発表がたくさん行われると知って、その考えが変わりました。税金は今の生活を支えるだけでなく、未来をつくる力にもなっているのだと思いました。

私は修学旅行でこの万博に行く予定です。ただ楽しむだけでなく、「税金によって未来を見る場所が作られている」ということを意識して見学したいと思います。もしこの万博がきっかけになって新しい技術が世界に広まり、命が助かる人が増えるとしたら、

それは私たちが納めている税金のおかげとも言えるでしょう。税金は身近で地味なものに思われがちですが、実は「未来を見に行くチケット」をみんなに配ってくれているお金なのかもしれません。

また、税金は災害が起きたときに人々を助け、安心して生活を続けられるようにしてくれます。もし自分の住む町で地震が起きて家が壊れてしまったとしても、税金のおかげで道路や建物が直され、普段の生活に戻ることができます。税金は誰か一人のためだけでなく、社会全体を支える力なのだと感じました。

税金は未来への投資なんだ、ということが自分なりに少しわかった気がします。そして、修学旅行で万博を見学する経験は、自分自身が税金によって未来を見に行くようなものだと思います。家族や多くの人が納めた税金によって、私は未来を学ぶチャンスをもらっているのです。将来、私が大人になって働くようになったら、税金を納める立場になります。そのとき、自分の払った税金が誰かの未来につながっていくことを忘れずにいたいのです。そして、大阪万博で感じた驚きや希望を思い出しながら、私も社会の役に立てる大人になりたいと思います。